

ファナック株式会社 2025 年度 第 1 四半期決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨 (2025 年 7 月 25 日開催)

Q. 2025 年度 1Q の業績をどのように評価されていますか？また、2Q の業績見通しについてどのように考えていますか？

A. 1Q は、米国関税に関する動向を受け、一部のお客様が設備投資を先送りする動きも見られました。ただ、全体的には需要は底堅く、受注・売上ともに堅調に推移したと考えています。利益についても、売上に比例する形で確保することができました。

2Q の見通しについては、売上は 1Q よりも若干増加する見込みですが、利益は若干減少すると予想しています。これは、期初である 1Q は費用が抑えられ利益が増加する傾向がある一方、2Q は工場の生産量がやや減少する見込みであるためです。生産量の減少は、受注やプロジェクトのタイミングによる一過性のものであり、利益の減少も一時的なものと捉えています。

Q. 今回の業績予想には、関税の影響をどのように織り込んでいますか？また、今後関税の影響によって利益が減少する可能性はありますか？

A. 関税については、基本的に 4 月の決算説明会でもご説明したとおり、「タリフ・サーチャージ」という形でお客様にご理解いただけるよう対応していきます。これにより、コスト増加分は概ねカバーできると考えています。

1Q に関しては、米国での売上は現地在庫からの出荷分もあり、関税の影響は限定的でした。新たに米国へ輸出する製品に関税が課されますが、このコスト増については基本的に価格転嫁をお願いしていく方針であり、利益への影響は最小限に抑えられると考えています。一方で、お客様にとっては価格アップとなりますので、当社としてはそれに見合った価値を提供できるよう、これまで以上に取り組みを強化していく必要があると認識しています。

Q. 1Q は関税の影響は限定的とのことですが、今後の価格転嫁方針について、御社の基本的なスタンスを教えてください。

A. 基本的には、日本から輸出する製品については、関税分をお客様にご負担いただく方向で検討しています。ただし、米国側でのコストについては関税の対象外となるため、その分は除外しています。お客様に納得いただけるよう、対象外となるコストは除いた上で価格転嫁を進めています。

こうした対応方針については、お客様に丁寧に説明し、ご理解いただけるよう努めています。

Q. 現在アメリカでロボットの受注が特に堅調な業種・分野について教えてください。

A. 自動車業界については、一部で様子見の動きもありますが、計画通りに投資を進めている企業も少なくなく、そうした企業からの受注は堅調に推移しています。

その他の分野でも、米国では労働力不足が続いていることから、資金に余裕のある企業では予定通りの設備投資が進められています。特に物流分野は大きなセグメントであり、需要は底堅く推移しています。

これまで関税の不透明感から様子見の傾向が強かったものの、そうした状況下でも比較的安定した受注がありました。今後、関税問題が解消されれば、非自動車分野での需要がさらに拡大する可能

性があると考えています。

Q. 今回の関税決定を受けて、米国での現地生産に対する方針に変化はありましたか？

A. 関税が 15%となると、コスト面では微妙な線ですが、現地生産には納期短縮などのメリットがあるのは確かです。今後の現地生産の可能性については、価格だけでなく納期やお客様の満足度など、さまざまな要素を総合的に考慮し、最終的にお客様にとって最も価値のある選択を検討していきます。当社はすでに米国で塗装ロボットの生産を行い、大きな拠点を構えています。そのため、米国での生産は十分に選択肢として考えられます。また、塗装ロボットに限った話ですが、現地での調達網も整っているため、これらを活用することで、比較的短期間で他のロボットについても一定程度の現地生産が可能になると考えています。

Q. 各商品における、アメリカ以外のヨーロッパ、中国、中国以外のアジアの現在の需要環境と今後の見通しについて教えてください。

A. まずヨーロッパについては、依然として厳しい状況が続いています。わずかに回復の兆しも見え始めていますが、まだ本格的な回復には至っていないという印象です。ヨーロッパではロボット、FA の順で売上が多く、ロボットについては自動車関連・一般産業ともに投資を控える動きが見られ、景気の回復が進まない限り厳しい状況が続くと認識しています。

中国については、引き続き堅調な状況です。FA では設備更新や自動車関連の需要が根強く、当社の現地向け CNC や、日本の工作機械メーカー向けの CNC も堅調です。ロボットでは、自動車関連や IT 関連企業による継続的な投資があります。IT 分野では、EMS 企業がベトナムやインドなどに投資を進める一方で、中国にも一定の投資が必要とされている状況です。当社商品では、ロボドリルやロボショットを中心に需要が増加しています。今後この傾向がどこまで続くかは注視していきます。

中国以外のアジア地域については、国によって状況に差があります。ベトナムは非常に堅調で、中国から EMS が移転する動きにより投資が進んでいて、当社にとって有望な市場と考えています。インドも過去数年間堅調に推移し、今後も成長が期待されます。こうした成長市場に対しては、拠点の拡充など積極的な対応を進めています。

Q. 1Q に FA の受注が好調だった背景について、具体的な要因を教えてください。

A. 1Q の FA の受注は 550 億円と非常に好調でした。主な要因としては、中国の工作機械メーカーによる発注が一時的に増加したこと、そして新興市場向けの需要が拡大したことが挙げられます。

特に中国における需要増は一時的な要素が大きく、今後も同水準の受注が継続するとは考えていません。ただし、中国はベースとなるキャパシティを十分に有しているため、今後市場が拡大する可能性はあると考えています。

Q. ロボマシンの今後の需要動向や市場見通しについて、どのようにお考えですか？

A. ロボマシンについては、現在アジア地域における IT 関連の投資が一段落している状況です。EMS 分野では依然として中国が圧倒的な規模を持ち、ベトナムやインドへのシフトは今後も進むと見えます。そのスピード感については予測が難しいですが、今後も散発的な需要が期待できます。当社としてはそうした機会を確実に捉え、売上・利益につなげていくことが重要だと認識しています。

Q. 今期のサービス部門の業績が振るわなかった背景について、どのように分析されていますか？

A. サービス部門については、過去数年にわたり徐々に拡大してきた経緯があります。特段大きな環境変化があったわけではなく、一時的な調整局面と捉えています。今後は再び成長軌道に戻ることを期待しています。

Q. ロボットの1Qでの受注が前年同期比で15.6%伸びていますが、今後の需要の持続性についてどのように見えていますか？

A. 今後の受注動向は関税の影響による様子見の姿勢に大きく左右されるため、当社としては1Qの受注水準が継続するとは想定していません。

自動車業界では、EV関連の投資が一時的に集中した後、方向性が見直しが進み、投資のタイミングが後ろ倒しになる傾向が見られました。一方、人手不足の問題は依然として深刻であり、特に最終組立工程ではロボット化のニーズが根強く存在していますが、こうした需要がどの程度顕在化するかは不透明です。

関税などの外部環境が好転すれば、競争力強化のための投資が再び活発化する可能性はありますが、現時点では2Q以降も1Qと同水準の受注が続くとは見込んでおらず、お客様との対話を通じて今後の方向性を見極めていきたいと考えています。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。